

関連項目：検証改善プラン①、②

「中央っ子アンケート」による実態把握と共通理解

目的

本校で実施している「中央っ子アンケート」は、本校児童の学校や家庭での生活や学習への取り組み態度や意識の実態を把握し、結果を教職員間で共通理解し、改善していくことを目的としている。

内容

● 中央っ子アンケートのねらい

本校は平成24年度に創立39年目を迎える高松市内では比較的新しい学校である。校区は、最近でも公園やマンションが新設されるなど、子どもたちを取り巻く環境の変化は著しい。他地域より転入してきた保護者の価値観は多様化しており、同様に子ども達の生活面や学習面の態度や意識の実態も年々変化してきている。このアンケートは、子ども達の生活面、学習面の態度や意識の実態をより正確に把握し、学校課題を解決し、本校の教育活動に活かしていくことがねらいである。

● アンケート方式と内容

中央っ子アンケートは、毎年5月と2月、年2回実施している。質問項目は、大別すると「あなた自身のことについて」「学校での生活について」「勉強のことについて」「家での生活について」の4つがあり、これらの設問に対して「とてもそう思う」「少しそう思う」「あまり思わない」「まったく思わない」のどれかに○で回答し、それを後に集計する方式で実施している。

内容は、例えば「あなた自身のことについて」の項目では、「自分のことが好きです(か)。」また「家族や先生からよくほめられます(か)。」「友だちとくらべて、できることが多いと思います(か)。」という本人の自尊感情や自己有用感を問う設問がある。さらに学校への期待感やいじめなど、子どもの現状の意識やその子にとって緊急の課題を把握する設問がある。学校での生活については、学校生活の中での時間や約束を守ることなどの規範意識を質問したり、給食や保健などの健康面への質問をしたりしている。さらに「家での生活について」の項目では、家庭での就寝・起床時刻、食事面などの質問に加え、特に最近問題になっている携帯電話やテレビゲームの利用時間などの実態を把握できる設問がある。

● アンケート結果と改善に向けて

例えば、「勉強(べんきょう)は大切(たいせつ)です。」という質問に対しては、本校児童の95%近くが「勉強は大切」と考えており、学習意識の高さが伺える。家庭での就寝・起床、歯磨き、食事などの項目についての結果をみると、概ね家庭での基本的な生活習慣は整っていることが伺えた。ただし、基本的な生活習慣が乱れている児童へは、なおさら関与をピンポイントで行っていく必要を感じている。

同じく「自分のことが好きです(か)。」という質問に対しては、少しでも自分のことが好き、と答える子どもが65%を超える一方で、自分のことを全く好きだと思わない児童が12%以上もいることが窺えた。この数字の中には、小学生という年代特有の「照れ」や「謙遜」などもあると推察されるが、やはり高い数字であり、自尊感情、自己有用感が低い児童が多いということが表れている。もしかしたら学校や家庭で、それぞれの子が「やりたいことを存分にやり、認められる」機会が少ないのかもしれないと考察している。もっと子ども一人一人がやりたいことをしっかりとやり、認められ、褒められる機会をつくっていく必要がある。同様の考えより、例えば教員の働きかけにより、4年生の折り紙好きの児童が自主的に立案、計画、周知等を行った「折り紙クラブ」が活動している。平成24年度の教育課程の編成においては、クラブ活動の時間を昨年度より倍増しようと計画している。さらに学校内において、より子どもの「やりたいことを存分にやり、認められる」教師の支援や環境を整えていきたい。

成果

教員間において、上記結果への共通理解が深まったことは成果である。さらに本校では、結果を「学力」「健康・安全」「豊かな心」という三つの部会ごとに話し合い、学校課題と繋がるものを探し、時間、場所、人員などを見直し、改善策を立て、次年度に活かせるものを教育課程の見直しへとつなげている。